

# 関、美濃「曾代用水」 築いた功績者祭る

関、美濃両市の農地を潤す世界かんがい施設遺産「曾代用水」を築いた功績者3人を祭る関市下有知の井神社で、昨年の台風21号の暴風で倒壊した拝殿と、老朽化した本殿に代わる新たな本殿が完成した。15日に完成式があった。

(鈴木太郎)

# 井神社 新本殿が完成

改良区の組合員らから寄付を募り、七百六十九万円を集めた。予算の都合で拝殿の再建は諦め、周囲の木の伐採と、本殿と本殿を囲う「鞘殿」の建設を進めた。工事は今年十一月末に完了した。完成式では、組合員ら七十人が

参列して玉串をささげ、地元の関市獅子舞保存会下有知支部が獅子神楽を奉納した。土地改良区の松田洋一理事長(セシ)「同市下有知」は式典後「立派な出来栄に満足した。ようやく完成してほっとした」と語った。

用水は江戸中期の十七世紀後半、土地が長良川の水位より高く取水が難しかった地区に、尾張藩浪人の喜田吉右衛門、林幽閑の兄弟と、関村(現・関市)の資産家柴山伊兵衛が私財をなげうって建設。土地の取得や岩盤の掘削が難航し、計画から完成まで七年を要した。

用水は美濃市保木脇の長良川から取水し、総延長十七キロ。同市中央から関市小屋名まで、農家千五百軒、農地千鈔を潤す。「不毛の地を豊かな水田地帯へと変え、三百五十年以上にわたり農業の発展に寄与した」として、二〇一五年に世界かんがい施設遺産に登録された。

神社は三人の功績をたたえるため、一八一三(文化十)年に近隣の農家らが建立した。倒壊した拝殿は一九〇八(明治四十一)年、旧本殿と共に建設され、先人の苦勞を語り継ぐ象徴となっていた。

昨年九月、台風の強風で屋根を支える柱が折れ、瓦ぶきの屋根が地面に崩れ落ちた。再建を目指し、神社の奉賛会が曾代用水土地

## 下有知 昨年の台風で拝殿倒壊



完成した本殿を前に神楽を奉納する関市獅子舞保存会員ら一同市下有知の井神社で